

チャレンジ 武蔵野人

は せ が わ ひ る き
長谷川宙輝さん

プロ野球選手・
福岡ソフトバンクホークス

「夢」から逃げない強さを 持ち続けて

かつて江藤智・元プロ野球選手を輩出した強豪の関東高校は1991年に聖徳学園と改称、進学校へと舵を切った。高校野球の大舞台に武蔵野市の名が挙がらなくなって四半世紀、新たな希望が輝き始めた。

思いも寄らなかった指名

2016年10月、ドラフト会議で福岡ソフトバンクホークスの育成選手として指名を受けた聖徳学園高等学校3年生・長谷川宙輝さん。

野球を始めたのは5歳。メジャーリーガー（当時はヤクルト所属）の青木宣親選手に憧れ「いつかプロになりたい」と夢を抱いた。

野球選手なら誰もが一度は夢見るプロ野球選手。高校進学時、強豪校に入る道も考えて

いたが、難しさは感じていた。「まず試合に出たかった。弱いなら強くなればいい」

長谷川さんのひたむきな努力に影響され、チームの士気は高まった。関東高校OBでもある中里英亮監督の熱い思いと、工夫をこらした指導が実を結び、次第に強豪校に勝てるようになると同時に、長谷川さん自身もプロから注目される存在となった。

だが、甲子園への道は甘くはない。高校最後の夏、西東京大会3回戦、雨中のマウンドで本来の投球することができず、大舞台で活躍する夢は散った。大学でチャンスをつかもう、そう考えていたときの指名だった。

「夢」は次のステージへ

プロ野球選手としての実感が湧いたのは、指名から1カ



福岡入りが目前の1月、高校で最後の冬期練習



鋭く落ちるスライダーが武器

月、球団のユニフォームに初めて袖を通したときだ。

「プロへの道を開いてくれた中里監督、自分を見てくれていた球団に対する感謝の気持ちでいっぱいでした」

市内でスポーツトレーニングを扱う「アローズ」も忘れられない大切な場所だ。トレーニングに打ち込むさまざまなアスリートから受ける刺激や、家族の支援で通わせてもらっているという感謝の気持ち、自分を追い込む原動力となった。

「困難があっても、環境のせいにしてはいけないと思います。精いっぱい努力をしても、今日は頑張ったと満足したら終わり。次に何をすべきかと考え続けることが大切だと思っています」

盤石とはいえない環境の中でも成長し、夢をかなえた。その将来に期待しないではない。

長谷川宙輝（はせがわひろき）

1998年生まれ。聖徳学園高等学校で三振のとれる左腕投手として活躍し、注目を集める。2016年10月のプロ野球ドラフト会議において福岡ソフトバンクホークスから育成選手で2位指名され、プロとしての第一歩を踏み出した。